

問題

次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

チェック

1 これも今は昔、\*民部大輔篤昌といふ者ありけるを、\*法性寺殿の御時、\*蔵人所の所司に、義助とかやいふ者あり

けり。くだんの篤昌を\*役に催しけるを、「1われは、かやうの役はすべき者にもあらず」とて、参らざりけるを、所司、

小舎人をあまたつけて、苛法に催しければ、参りにけり。さて、まづ、所司に「もの申さん」と呼びければ、出であひけ

るに、この世ならず腹たちて、「かやうの役に催し給ふは、いかなることぞ。まづ篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。

5 承らん」と、しきりに責めけれど、しばしはもの言はでるたりけるを、叱りて、「のたまへ。まづ、2篤昌がありやう

を承らん」と、いたう責めければ、「3別のこと候はず。民部大輔五位の、鼻赤きにこそ知り申したれ」と言ひたりければ、

「をう」と言ひて逃げにけり。

また、この所司がゐたりける前を、忠恒といふ隨身、4異様にて練り通りけるを見て、「\*わりある隨身の姿かな」と

忍びやかに言ひけるを、耳とく聞きて、隨身、所司が前に立ち帰りて、「わりあるとは、いかにのたまふことぞ」と咎め

10 ければ、「われは、人のわりのありなしもえ知らぬに、ただ今、武正\*府生の通られつるを、この人々、5わりなき者

の様体かな」と言ひあはせつるに、すこしも似給はねば、さてはもし、わりのおはするかと思ひて、申したりつるなり

と言ひたりければ、忠恒「をう」と言ひて逃げにけり。

この所司をば、「6荒所司」とぞつけたりけるとか。 (『宇治拾遺物語』より)

注

\*民部大輔Ⅱ民部省(戸籍・租税などを管轄した役所)の次官。 \*法性寺殿Ⅱ藤原忠通。 \*蔵人所の所司Ⅱ「蔵

問四 人物の行動や発言から文章の展開を理解する

問三 文脈を押さえる

人所」は、藏人（天皇の側近）が執務した役所。「所司」「小舎人」はそこで働く職員。\* 役Ⅱ夫役・労役。\* わりあるⅡ「わりなし」の対義語として、所司が即興で作った語。\* 府生Ⅱ衛府（宮中を護衛し、行幸・行啓の供奉などをつかさどった役所の総称）の下級武士。

問一 傍線1、「篤昌」はどのようなことを言おうとしたのか、説明せよ。(7点)

問二 傍線2～4を口語訳せよ。(18点)

問三 傍線5について、次の(i)・(ii)に答えよ。(7点)

(i) 傍線5とあるが、どういうことか、説明せよ。

(ii) 所司はなぜ「わりある隨身の姿かな」と言ったのか、説明せよ。(8点)

問四 傍線6「荒所司」というあだ名にはどのような意味が込められているのか、説明せよ。(10点)

問三 注を踏まえて登場人物の状況を押さえる

問一 指示内容など文脈から適切な語を補って解釈する

問二 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳す

出典

『宇治拾遺物語』 六十二「篤昌・忠恒等の事」

『宇治拾遺物語』は、十三世紀前半に成立したとされる、編者不詳の説話集。内容は、仏教説話・世俗説話・民間説話などだが、全体的に教訓性は薄く、面白みや笑いの要素が強い点が特徴である。

解答

問一 自分は民部大輔五位であって、労役などをするような身分ではないから拒否する、ということ。

問二 2 篤昌がどのような身分の者とお考えなのかをうかがいたい

3 特別なことはございません

4 風変わりな格好で悠々と通った

問三 (一) 武正府生の様子がすばらしかったのを、人々がほめたということ。

(二) 忠恒が、「わりなし」という武正のすばらしい様子とは正反対だったため「わり」が「なし」とは反対の「ある」と言った。

問四 どのような相手に対しても物怖じせず、相手を言い負かしてしまふ勇ましい所司、という意味。

### 解説

#### 今回の文章の概要

義助という所司が、男二人を話術で言い負かす

◎民部大輔篤昌の場合

・民部大輔篤昌が労役の召集に応じなかつたため、所司が厳しくせきたてて参上させた

・篤昌は立腹し、「自分は労役を課されるような身分ではない」「この私

がどのような身分と思っているのかうかがいたい」と所司を責めた  
・所司は「民部大輔五位で、鼻が赤い方だとは存じております」と返事をした

・篤昌は「おう」と言っけて逃げ出してしまった

◎隨身忠恒の場合

・所司の前を、忠恒が変わった格好をして通り過ぎたところ、所司は「わり、ある、隨身の姿だなあ」と言った

・忠恒は「わり、ある、とはどのような意味だ」と所司を問いただした

・所司は「人々が、武正府生に対して『わり、なく、すばらしい武者の様子だ』と言いつ合っていたが、あなた(≡忠恒)はそれに少しも似ていないので、わり、があり、かと思つて申し上げた」と返事をした  
・忠恒は「おう」と言っけて逃げ出してしまった

↓人々は所司を「荒所司」と名づけた

☑ 指示内容など文脈から適切な語を補つて解釈できたか

問一 傍線部は直訳すると「**わしは、このような「役」はするような身分でもない**」となる。「役(やく・えき)」は、人々を公用の労働に使うこと。また、割り当てられた公の労務。したがつて、対象は主に一般人民である。ところが「われ(≡篤昌)」は「民部大輔(≡民部省の次官)五位」(レ6)の身分であるため、それがどのような夫役であれ、夫役などというものは**自分のような身分の者のすることではない**、と拒否したのである。

☑ 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳せたか

問二 2 「篤昌」とは自分のことで、「ありやう」は「様子・状態」の意。「承らん」は、「聞く」の謙讓語「承る」の未然形「承ら」に、意志の助動詞「ん」の終止形がついたもの。「ん(む)」には他に、「推量・適当・勧誘・婉曲・仮定」などの意味があるが、ここは主語が一人称(篤昌)なので、篤昌の意志を表す。「自分の様子を相手に聞きたい」と言っているのは、つまり「**相手が自分をどのような身分の者**

だと思ってるのか聞きたい」ということで、④4～5の「篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。承らん」を言い換えたものである。ここを参考にして訳出しよう。

3 「別のこと」は〈特別なこと・とりたてて言うべきこと〉で、「候はず」は、「あり」の丁寧語「候ふ」の未然形「候は」に、打消の助動詞「ず」の終止形がついたもの。よって〈特別なことはございません〉という訳になる。ここは、身分をかさにきて命令を断ってきた篤昌に対し、所司は篤昌の身体的特徴を指摘してやりこめたのである。

4 「異様にて」は、形容動詞「異様なり」(＝普通と違っている・風変わりだ)の連用形「異様に」に、接続助詞「て」がついたもの。続く「練り通りける」を修飾するので、〈風変わりな格好で〉と言葉を補おう。「練る」は〈ゆっくりと〉(行列を作ったりして)進む〈ゆっくりにもつたいぶって歩く〉という意。つまり、普通の歩き方ではなく、自分の異様な風体を誇示しながらゆっくりと歩いていたのだ。ここで、「にて」の識別についてまとめておく。

「にて」の識別

①格助詞「にて」

↓体言・連体形に接続。〈～で・～の時に(場所・時)〉〈～で・～によって(手段・方法)〉〈～ので・～によって(原因・理由)〉などと訳出。

②断定の助動詞「なり」の連用形+接続助詞「て」

↓体言・連体形に接続。〈～であって〉と訳出。

③ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾+接続助詞「て」

↓形容動詞の語幹に「くな」とつけることができる(「異様に」は「異様な」とすることができるので、「異様なり」の連用形活用語尾)。〈～で〉と訳出。

④完了の助動詞「ぬ」の連用形+接続助詞「て」

↓連用形に接続。「にて候ふ」「にて侍り」の形になることが多し。〈～てしまつて〉と訳出。

☑ 文脈を押さえられたか

☑ 注を踏まえて登場人物の状況を押さえられたか

問三 (i) 「わりなし」は、基本的には「ことわり(理)なし」、すなわち〈道理に外れている・筋道が立たない〉という意味である。そこから、〈どうしようもない・無理だ・困る・つらい〉といった困惑の気持ち、また、〈並外れてひどい・悪い〉、反対に〈並外れてすぐれている・すばらしい・美しい〉などの程度のはなはだしいことを表す用法が生じてきた。

さて、傍線部の「わりなし」の意味だが、風変わりな格好をして「わりある隨身」と言われた忠恒が、その理由を知って逃げ出していることから、「わりあり」は悪い意味、反対の「わりなし」は良い意味だと推測できる。よって、**武正の身なりが〈並外れてすぐれている〉**と**いったプラスの意味がふさわしく**、傍線部を直訳すると**〈すばらしい武者の様子だなあ〉**と**言い合った**となる。解答にあたっては、**人々が(武正の様子を)ほめた**という内容も加えるとよい。

(ii) 傍線部直後の「すこしも似給はねば……わりのおはするかと

思ひて、申したりつるなり（＝（武正の様子にあなたは）少しも似ていらっしやらないから……わりがおありなのかと思つて、申したのだつた）をもとに考え、解答をまとめよう。「**わりなし**」という**すばらしい様子の武正に対して、忠恒が正反対の様子だったので、「わり」が「ある」と言ったのである。**

☑ **テーマ問題** 人物の行動や発言から文章の展開を理解でき  
たか

問四 二つのエピソードを通して、「荒」の意味を考えよう。

「荒」は一般に、〈荒々しい・勢いが激しい・乱暴だ〉などの意味があるが、所司の場合は暴力をふるっているわけでもないし、「荒」が否定的な悪い意味で使われている様子でもない。最初のエピソードの篤昌は、民部大輔五位という身分を誇示してきたが、所司は平然として「別の時候はず」と受け流し、さらに、赤鼻のことを容赦なく指摘して追い払ってしまう。一方、変わり者の忠恒に対しては、「わりある」という皮肉をこめた言葉でやりこめて退散させている。**どのよ**  
**うな種類の人間を相手にしても一歩も引かず、きつい言葉で急所を突**  
**いてやっつけてしまう**——そのような所司の強力な弁舌に、人々は**〈勇猛・勇ましい〉**といった意味も込めて「荒所司」とあだ名したのであろう。ここでの「荒」は否定的な意味は強くない。

☑ **必修テーマを確認** 「頻出パターン1 知恵と機転」＋「頻

出パターン4 愚かな行動／滑稽話」に当てはまる。登場人物の言動に注目して、物語の展開をつかもう！

## 全訳

これも今となつては昔の話で、民部大輔篤昌という者がいたが、法性寺殿の御治世中、蔵人所の所司に、義助とかいう者がいた。上述の篤昌を夫役に召集したが、「**1 わしは、そのような夫役はするような身分でもない**」と言つて、参上しなかつたので、所司が、小舎人を大勢つけて、厳しくせきたてたところ、参上したのだつた。そして、まず、所司に「申したいことがある」と声をかけたので、出て対面したところ、たいそう腹を立てて、「このような夫役に召集なさるとは、どういうことか。まずこの篤昌を、どのような（身分の）者とお考えなのか。うかがいたい」と、しきりに責め立てたが、（所司は）しばらくはものも言わずに座っていたので、叱つて、「口をきかれよ。まず、**2（この）篤昌の様子（＝篤昌がどのような身分の者とお考えなのか）**をうかがいたい」と、ひどく責め立てたところ、「**3 特別なこと**とごいませぬ。民部大輔五位で、鼻が赤い方だと存じております」と言つたので、（篤昌は）「おう」と言つて逃げてしまった。

また、この所司が座っていた前を、忠恒という隨身が、**4 風変わりな格好で悠々と通つたのを見て、「わりある、隨身の姿だなあ」とこつそり言つたのを、耳ざとく聞きつけて、隨身は、所司の前にたち戻つて、「わりあるとは、どのような意味でおっしゃつたのか」と問いただしたところ、「わしは、人のわりのあるなしもよく知らないが、ただ今、武正府生が通られたのを、この人々が、『**5 すばらしい武者の様子だなあ**』と言ひ合つたけれども、「（武正の様子にあなたは）少しも似ていらっしやらないから、それではもしかしたら、わりがおあ**

りなのかと思つて、申し上げたのだった」と言つたので、忠恒は「おう」と言つて逃げてしまった。

(人々は) この所司を、「6 荒所司」と名づけたとかいう話である。

#### まとめ

- ・ 指示内容など文脈から適切な語を補つて解釈する
- ・ 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳す
- ・ 文脈を押さえる
- ・ 注を踏まえて登場人物の状況を押さえる
- ・ 人物の行動や発言から文章の展開を理解する